

# 第31回 日本緩和医療学会学術大会

The 31st Congress of the Japanese Society for Palliative Medicine



## PAL参加の方へ: おすすめセッション

### 大会長おすすめセッション

- ・基調講演「身寄りのない人の医療の現状と意思決定」
- ・特別講演1「「こえ」をかたちづくるもの、「聴くこと」がもたらしうるもの」
- ・特別講演2「信頼はどこから生まれるか — 好奇心・互恵性・透明性がつくるコミュニティ・レジリエンスの基盤」
- ・大会長企画シンポジウム4「最善の利益について考える」

### WGおすすめセッション

#### WG1「痛み」

- ・シンポジウム14「疼痛と医療経済:社会に与えるインパクト」

がんの診断時、治療中、治療後、どの時期においても痛みは頻度が高く、生活に大きな支障をきたす症状です。このシンポジウムでは、痛みをただ治療の対象として捉える既存の考え方からさらに踏み込み、痛みがどのように生活に支障をきたすのか、社会に影響を与えるのか、痛みと経済毒性の観点から考えます。

#### WG2「痛み以外の身体症状」

- ・シンポジウム12「補完代替療法のアップデート」
- ・TIPS「しびれ感とそれに伴う生活障害への非薬物アプローチ」

患者さんやご家族からよくご質問をいただくテーマかと思えます。

#### WG3「精神・心理的・社会的・スピリチュアルケア」

- ・パネルディスカッション13「リハビリテーションががん患者に与える心理的効果」

近年、医療の進歩によりがんは「治す病」から「共に生きる病」へと変化してきています。生活機能の維持・改善を支えるリハビリテーションには、がんの進行、治療のどの段階においても、できることがあります。本セッションでは心理的側面への効果について、エビデンスから実践編まで多職種の視点で発表します。その人らしく生きる時間の実現のための支援を検討する企画として、PALの皆様にも関心を持っていただける内容と考えております。

- ・パネルディスカッション7「AIにがん患者カウンセリングはどこまで可能か—有効性と限界—」

近年、患者さんやご家族が生成AIを用いて、症状や治療、今後の療養について相談する機会が増えています。本セッションでは、症状相談、ACP、治療継続・中止の意思決定、終末期の実存的苦痛への対応などを題材に、「AIに何ができて、何ができないのか」を多職種で議論します。AI時代における対話・意思決定支援について考える企画として、PALの皆さまにも関心を持っていただける内容と考えております。

#### WG4「地域・在宅ケア・特定集団に対する緩和ケア」

- ・ワークショップ3:「『身寄りのない人』の緩和ケア:法的・実践的アプローチの第一歩」

同じ地域に生きる一人の市民として、人生の最終段階を迎えた同じ地域住民である「おひとりさま」にどう伴走していくべきか、「生きるを支える」アプローチを共に探ってみませんか?

#### WG5「終末期ケア・専門的ケア(緩和ケア病棟・緩和ケアチーム等)」

- ・教育講演3「新しい概念:ポジティブヘルスとは何か?~患者主導のがん診療への新しい道しるべ~医療だけで人を幸せにしようとする」
- 病気を治すことだけでなく、「その人らしく生きる力」を患者自身が取り戻す視点を学べるかと思えます。

#### WG6「教育・啓発普及・研究・ヘルスケア・その他」

- ・パネルディスカッション11「病気そのものの治療・ケア以外の「気がかりなこと」への取り組み」

全人的苦痛のなかでも社会的苦痛は、しばしば患者自身の人生の積み重ねの結果として生じるものであるし、医療者の専門性・職域を超えた問題であることも多いです。

しかし患者にとって特に「気がかり」なことが、病気そのものの治療・ケアとは直結しない社会的な問題であることも少なくはなく、医療者、特に緩和ケア従事者として全人的ケアに携わるのであれば、患者の社会的苦痛にもできるだけ寄り添い、可能な範囲で解決のための手助けをしたり、専門家につないだりする関わり方ができるのが望ましいと考えられます。

このセッションでは、患者にとっての「病気そのものの治療・ケア以外の気がかりなこと」に医療者がどう向き合えばいいか、どのようなアプローチ・取り組みをすればいいのか等について、3名のパネリストに医師・看護師・MSWの観点から語っていただき、さらに参加いただいた方々とも一緒に活発な議論を行っていきたく思います。

#### WG7「小児」

- ・教育講演1「こどもの声を聴く際に大切にしたいこと こどもの“心”の声を聴くこと~Celebrate Life~」

遊びや日常生活の中で発せられるこどもの“心”の“声”を、NHKプロフェッショナルにも出演経験のあるチャイルドライフスペシャリスト佐々木美和さんの体験を通して、聴いていただきたいです。温かい気持ちになれる時間だと思っています。

#### WG8「PAL」

- ・委員会企画5「こえをきき、ともにつくる研究 — PPI(患者・市民参画)の実践と展望」
- ・合同シンポジウム8「がんサポーターケアの最前線」
- ・シンポジウム14「疼痛と医療経済:社会に与えるインパクト」